

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名	北海道縦貫自動車道 士別剣淵～名寄		事業区分	高速自動車 国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道士別市南町東 至：北海道名寄市字豊栄				延長	24.0 km
事業概要	北海道縦貫自動車道は、函館市を起点に室蘭市、札幌市、旭川市、士別市、名寄市を経由して稚内市に至る延長約681kmの高速自動車国道である。このうち士別剣淵～名寄は、士別剣淵ICから名寄バイパス（名寄IC）を接続する延長約24kmの区間であり、国土・地域のネットワークの構築により道北圏と道央圏の連絡強化を図り、物流の効率化や個性ある地域の形成及び円滑なモビリティの確保に寄与する道路である。					
H15年度事業化	H一年度都市計画決定		H19年度用地着手		H19年度工事着手	
全体事業費	約295億円	事業進捗率	15%	供用済延長	-km	
計画交通量	4,900台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 1.9	総費用 (残事業)/事業全体 235/275億円 (事業費：193/234億円) 維持管理費：41/41億円	総便益 (残事業)/事業全体 436/436億円 (走行時間短縮便益：342/342億円) 走行経費減少便益：64/64億円 交通事故減少便益：30/30億円	基準年 平成20年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.0（交通量 +10%） B/C=1.7（交通量 -10%） 事業費変動：B/C=1.7（事業費 +10%） B/C=2.0（事業費 -10%） 事業期間変動：B/C=1.8（事業期間 +2年） B/C=2.1（事業期間 -2年）					
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 国土・地域ネットワークの構築（新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する） 物流効率化の支援（大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる） 安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる）他7項目に該当 					
関係する地方公共団体等の意見	名寄市、旭川市をはじめとした7市4町の首町などで構成される「北海道開発幹線自動車道道北建設促進期成会」ほか、8団体より事業促進の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成15年度に北海道縦貫自動車道が士別剣淵ICまで供用。平成18年度に国道40号名寄バイパスが智恵文ICまで供用。平成20年に道の駅「もち米の里☆なよろ」、道立広域公園サンピラーパークがオープン。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成19年度より工事着手して、用地進捗率10%、事業進捗率15%となっている。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	緊急に整備すべき区間について平成20年代中頃の暫定2車線本線工事完了を予定している。					
施設の構造や工法の変更等	構造・規格の見直しや技術開発に伴う見直しによりコストの縮減を図っている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。